

愛知教育大学におけるデザイン教育（3）——今年度・卒業研究の成果

発表者：富山 祥瑞

愛知教育大学 教育学部（教員養成課程 デザイン教育）

tomiyaama@aeucc.aichi-edu.ac.jp http://www.tomiyaama-stationery.com

1. はじめに —— デザイン教育の実情

デザインとは「問題解決のマネージメント」と、デザインに関わっている人なら誰も考えています。

ところが学校教育上では、現在、美術教科の一領域に留まっているのがデザインです。「美術」の中でも絵画や彫塑や工芸といった表現領域としてはイメージしやすいのですが、とても「問題解決のマネージメント」とまでは到達していません。学校教育でのデザインは専ら「装飾や構成」と捉えられているのが実情です。

2. デザイン教育の理念と卒業研究

デザインとは「社会生活それぞれの場面で、その背景にある問題を掴み（課題の把握）、筋道を立てて課題を解決していく取組みそのものを指し、さらには、解決策をいかに社会に還元するか！までを見据えた一連のマネージメント」と考えています（昨年度、本学会口頭発表）。

大学に着任以来、上記のようにデザイン教育を捉え直してきた筆者にとって、2007年度は、入学時から体系的カリキュラムで「デザイン教育」を担当した学生が卒業します。本日は、この理念でデザイン領域を卒業研究のテーマに選んだ学生の研究内容の抜粋を紹介します。研究室への配属は、教育実習の終了直後の3年次後期からで、定員は5名です。

3. 卒業研究のフェーズ

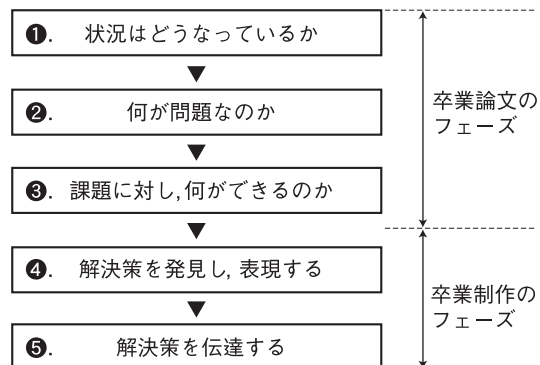
愛知教育大学のデザイン教育研究室は、教育学部の教員養成課程に設置された研究室です。どのような分野に進もうとも、基盤となるデザイン思考を備えた人材の育成を目指しています。そのため企業に就職しデザイナーやディレクターになる学生もいますが、基本的にはデザインの本来の在り方を教育・開発する教員の養成を主眼としています。

卒業研究としては、ヴィジュアルデザインが中心とか、プロダクトデザインが中心といったカテゴリーは限定していません。しかし、教育学部という特性を活かし、教育関連のテーマを選ぶように指導しています。教育分野という

足下の井戸を掘ることで、企業をテーマにすることに比べ、より研究が深耕できているからです。

卒業研究の課題としては「卒業論文」と「卒業制作」から成ります。これは本学・美術科共通の規定です。この組立てとして、本研究室では「卒業論文」のフェーズを「① 現状観察、② 問題把握、③ 課題解決の着眼方向」として見通しを纏め、「卒業制作」では「④ コンセプト提示、⑤ 解決策を伝達する成果品」と繋げています。

[卒業研究のフェーズ]



卒論では、本人の踏査を経ないインターネット等からの切り貼りや、書物からの受け売り情報は認めていません。制作物とは別個に、労力を要する論文も課すことは、学生にとっては重荷でしょうが、この方法はデザイン思考を涵養する最適な道筋と考えています。

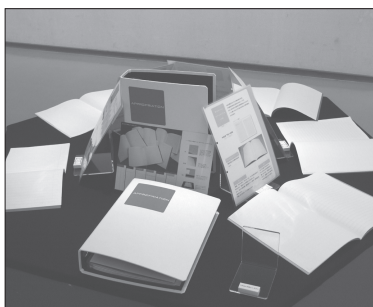
4. 今年度の卒業研究（卒業論文＋卒業制作）

今年度は、デザイン教育研究室から下記の5研究がプロデュースされました。

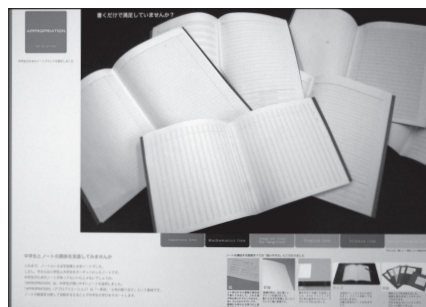
- ・中学生用通学バッグのデザイン（PD）
- ・司書教諭のための学校図書館展示ツール（VD）
- ・愛知教育大学における広場のデザイン（環境）
- ・フレ！フレ！ 男の幼稚園の先生（広告）
- ・中学生用ノートのデザイン（PD）（写-1～3参照）



写-1) ノートの開発コンセプト展示光景



写-2) 中学生用ノートのプロトタイプ



写-2) 開発ノートの販売用ポスター